

Haemophilus parainfluenzae による急性腎盂腎炎から菌血症に至った 1 症例

◎山口 健太¹⁾、佐野 由佳理¹⁾、矢野 智彦¹⁾、田口 舜¹⁾、香月 万葉¹⁾、平野 敬之¹⁾
地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館¹⁾

【緒言】*Haemophilus parainfluenzae* は、口腔内常在菌の 1 種で、尿路感染症の原因菌としては比較的稀である。今回、*H. parainfluenzae* による急性腎盂腎炎から菌血症に至った症例を経験したので報告する。

【症例】55 歳、男性。20XX 年 7 月、発熱と右側腹部痛を主訴に当院救急外来を受診。頻呼吸、頻脈、血圧低下を認め、血液検査では炎症所見高値を認めた。右 CVA 叩打痛あり、腹部単純 CT にて右水腎症、右腎盂尿管移行部狭窄、右の腎臓周囲脂肪織に混濁を認めた。急性腎盂腎炎による敗血症性ショックが疑われ緊急入院となり、右尿管ステント留置し、MEPM の投与が開始された。入院時に採取された血液培養 4/4 本及び腎盂尿よりやや小型のグラム陰性桿菌を認め、*H. parainfluenzae* と同定された。薬剤感受性試験結果判明後は、CTRX へ抗菌薬を変更され、全身状態良好で経過していたため、AMPC 内服に抗菌薬を変更後、退院となった。

【考察】*Haemophilus* 属菌による尿路感染症は比較的稀であり、尿培養検査にチョコレート寒天培地を使用しない場合

は、見逃す可能性がある。塗抹検査で小型のグラム陰性桿菌が認められた場合は、*Haemophilus* 属菌の関与も念頭におき、チョコレート寒天培地を追加することが望ましいと思われる。

佐賀県医療センター好生館 検査部
連絡先：0952-24-2171